

# 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		平成30年度 第2回丹波市文化芸術推進審議会		
事務局 (担当課)		まちづくり部 文化・スポーツ課 芸術文化係		
開催日時		平成30年11月12日(月) 午後1時30分～午後4時15分		
開催場所		丹波市立春日住民センター 大会議室		
出席者	委員	出席委員：角悟、荻野直貴、藤野一夫、廣瀬 仁美、吉見順子、林伸光、三木哲夫、山本浩史、大地常夫、山内順子、進藤妙子		
	指導者	-		
	事務局他	丹波市副市長 鬼頭哲也 まちづくり部 部長 足立良二 まちづくり部 文化・スポーツ課 課長 高見智幸 まちづくり部 文化・スポーツ課 係長 長井誠 まちづくり部 文化・スポーツ課 主幹 高見辰二 まちづくり部 文化・スポーツ課 機械員 足立稔 企画総務部 総合政策課 課長 清水徳幸 教育部 文化財課 課長 長奥喜和 教育部 学校教育課 次長兼課長 足立正徳 神戸大学 大学院生・大学生		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		-		
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 説明・協議事項 (1) 市民等アンケート調査について (2) 文化資源視察研修報告について (3) シューベルティアーデたんばについて (4) 伝統文化(地域の祭)等の報告 (5) ミニディスカッション 4 今後の予定について 5 その他 6 閉会		
会議結果		審議経過のとおり		

## 会 議 要 旨 （ 審 議 経 過 ）

事務局 (係長)	<p>1 開会</p> <p>皆さん、こんにちは。文化・スポーツ課の〇〇と申します。日ごとに寒くなってまいりましたが、公私ともにご多忙の中、ご出席を頂き誠にありがとうございます。本日は、米村委員、梅谷委員より欠席のご連絡を頂いております。なお、磯尾委員、中澤委員がまだ来られておりませんが、追って出席頂けるものと思います。それでは、定刻になりましたので、ただ今から、平成 30 年度、第 2 回の丹波市文化芸術推進審議会を開会させていただきます。本審議会は公開で開催します。なお、本日、傍聴者の方が 1 名来られております。</p>
事務局 (係長)	<p>2 会長あいさつ</p> <p>それでは、お手元の会議次第の 2 番、会長よりごあいさつを頂きます。会長よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>皆さま、こんにちは。本当に秋が深まって来まして、神戸から来る途中も紅葉がだいぶ進んでまいりました。第2回目の審議会ですが、一番最初に審議会の立ち位置について、もう一度確認させていただきたいと思います。前回の資料にもありましたように丹波市の文化芸術推進審議会というのは、一つは国の文化芸術基本法、これが根拠法になっております。そこで各自治体が推進計画を作るようにしてくださいというような要望がございました。それから県では芸術文化振興ビジョンががございます。そして、丹波市では総合計画ががございます。その辺りとの整合性を取りながら、中期的な視野に立った文化芸術の推進計画を作り、10年後の丹波の文化と地域社会の在り方を考えるといった審議会がでございます。もう一つは同じ兵庫県内で都市規模、市の規模が似ている所ということをもって、豊岡も少し睨みながら進めてきております。豊岡は既に文化芸術の振興計画がこの4月から走っております。これから丹波市もアンケート調査をやりませけど、やはり県内で多くの市町が広域合併をしたこともございますので、豊岡との比較もしてみたいということで今日アンケートの項目についてお話があると思いますが、分析の時に豊岡との違いなども明らかにしていきたいと思っております。この間、昨日も東京に行っていましたが、東京は本当に文化芸術のイベントが多くて目が回るようなんです。関西も関西圏の広域としては沢山あります。丹波にそういうのがないかという、先ほども課長とお話をしていましたが、秋はイベントで人の取り合いになると。ですから、地域には地域に根差した、コミュニティに根差したそれぞれのイベントがあるし、そういったところを我々が知らないだけであって、沢山の文化資源、宝物が埋もれております。ただ、それが全員に視えるようになっていないし、合併したそれぞれの市域の人達もお互いによく知っているわけではないという傾向ががございます。その辺を視える化するというのも非常に重要なポイントかなと思っております。それから自治体の文化政策のトレンドとして、私も幾つか関わっていますけども、二つの方向性があるのではないかと思います。一つはコミュニティ創生、地方創生という言葉がありますが、コミュニティをどうやって新しいものに造り替えていくかというコミュニティ創生という観点があって、これは特に合併後の新しい市域アイデンティティ、市民アイデンティティを文化芸術によって創っていく。そういった観点の取り組み、これがコミュニティ</p>

創生の観点からの自治体復活政策だと思っています。それからもう一つは、都市型ではそういったことをやっていますけども、最近は地方でも文化創造発信、文化創造をしてそれを対外的に発信していくというシティプロモーション型、インバウンド型、特に観光政策なんかと結びつけるような自治体復活政策のトレンドがございます。先ほど豊岡の例を挙げましたけど、2, 3日前に朝日新聞に出た記事があって、それを今日はコピーさせていただきました。平田オリザさんというのは露出度が異常に高い方なんですけども、ご存知のように城崎国際アートセンターがこの3, 4年大変成功していて、国際的にも豊岡というのがブランド化してきています。そういった流れに乗って、例えば専門職大学を誘致するとか、国際的な演劇祭に向かって今取り組みを始めています。豊岡のコンセプトは大交流という考え方であって、特に観光と文化を密接に結びつけるということを考えています。ところが日本では観光の専門家、特に文化芸術の専門家が分かれているので、両方に精通しているような人が必要となります。だからそういった観光と文化の両面に精通したような人達を育てながら、この地域の活性化とか地方創生をやっていこう。つまり観光文化政策を担える人材を育てたいというようなことが語られています。それからもう一つは多文化共生ということです。丹波の地域、どれくらい外国人の方とか留学生の方がいらっしゃるかという、それほど多くはないと思うんですけども、政府もいわゆる一般の労働者に対して受け入れの方向に舵を取っています。そうしないと日本の産業、経済の構造というのがこのままでは成り立たないという風になってきていますので、そうすると欧米並みの移民社会というのがこれから進んでいくと思います。移民社会化する大都市だけでなく地方においても言葉もそうですけど、文化的にどのようにその人達と対話をしたり、あるいは手を結んでいくか。そういう意味での社会的プロセスというのが文化芸術の凄く大きな課題になってきている。そういったところでも、やはり寛容性とか多様性とか、受け入れる力を地域が持っていかななくてはならない。ということで、豊岡なども外国から来る人達の多様性を活かして、しなやかで強い社会に発展させたいというようなことを考えているようです。このように見ていくと文化政策のトレンドの一つはコミュニティ創生で、合併後の新しい地域アイデンティティを創っていく。そのためにはそれぞれのコミュニティに根差した文化資源をお互いにまずは知ることから始める必要がある。これが一つの側面です。それからもう一つは文化創造市、対外的に発信していくというプロモーション型、インバウンド型の文化政策です。丹波市の場合にこの二つのトレンドの内、どちらを優先するのかということをやはり私たちの審議会の中でも議論していきたいと思っています。今日の学生たちの発表は、主にこのコミュニティ創生です。新しい丹波市のアイデンティティを創っていくという、そういった傾向が強いので、いわゆる文化資源に中心が置かれていますけれども文化資源を発掘する。お互いに認識する。というだけでなく、もう少し新しい芸術の刺激を入れた方がいいのではないかと感じます。その辺り今日の後半4~50分取って、皆さんと大いにディスカッションをしたいと思っていますので、それぞれの委員さんのご経験、ご意見を訊かせていただければ幸いです。

### 3 説明・協議事項

#### (1) 市民等アンケート調査について

それでは、協議事項に入っていきたいと思っています。まず最初に、次第の(1)にござい

会長

事務局 (課長)	<p>まず市民等へのアンケート調査につきまして、11月20日頃に発送を予定されておりますけども前回の審議会での修正箇所も含めて、事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局の〇〇です。まず資料の確認をさせていただきますが、次第と今見ていただいている資料、それと学生さんに纏めていただいたプレゼンの資料、シューベルティアードたんぼのパンフレット、これは〇〇委員からプレゼンをしていただく分ということで、その分があるか確認下さい。それでは資料の3ページをご覧くださいと思います。市民の皆様へのアンケート調査の訂正箇所につきまして、ご説明をさせていただきます。なお、アンケートの中で軽微な字句の訂正等につきましては、こちらで訂正をさせていただきますことをご了承頂きたいと思っております。第1回の審議会におきまして一番上の行ですが、〇〇委員より文化芸術活動のかつこ書きで、創作・企画・運営という表現が非常に分かりづらいとのご意見を頂きました。事務局としては、創作を消して企画・運営等を含むというように、ある程度柔軟な表現に変更をさせていただきます。以降の文化芸術活動につきましても同様です。次に4ページをご覧ください。問9の所です。前回の資料では、主に鑑賞と活動の1本で記入をして頂くような様式としておりましたが、鑑賞したものは左側、活動したものは右側で、それぞれに優先順位の高いものからご記入頂けるような様式に変更をしております。具体的には左側の3ページの問8、分野の中から①音楽、②美術等の選択を頂き、もう一度4ページに戻っていただいて、問9の左側につきましては鑑賞したもの、そして右側は活動したもの、それぞれの分野の丸付き数字に〇を入れていただいて、また地域名に〇をして、そして最後に鑑賞・活動の具体的な内容を記載頂くという様式に変更をしております。それと7ページをご覧ください。問20です。前回の資料では、あてはまるものすべてに〇という表記をしておりましたが、全てに〇としますとアンケートをする方で本当に全てに〇をされる方が有るようで、選択肢が10個を超えるものについては、5つまでに〇というように変更をさせていただきます。以降の問いにつきましても同様です。こちらからの修正は以上でございます。他に何かございましたら宜しくお願い致します。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。ただ今の説明内容につきまして、ご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。今日が最後のチェックですね。</p>
事務局 (課長)	<p>はい。それと例えば問11にお進みくださいという場合は、カラー刷りにしております。以降の団体のアンケートとかにつきましては、白黒にしておりますが、同様に飛んでいく所につきましては、分かりやすいようにカラー刷りをさせていただくということでご理解をいただきたいと思っております。</p>
会長	<p>はい。少し時間がかかるかもしれませんが、少しめくって確認をお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、先に進ませていただきます。</p>
会長	<p>(2) 文化資源視察研修報告について 次第の(2)でございます。文化資源視察研修報告から(4)の伝統文化(地域の祭)等の報告まで、一括して説明等を頂きます。なお、質問につきましては、この後の次第の(5)でミニディスカッションを予定しております。そこで一括してお受けしたいと思います</p>

ので、メモ等を取っていただければと思います。それでは最初に神戸大学の学生がプレゼンテーションを行います。特に、学生からは外部から見た、女性の目線で丹波の文化資源の現状と課題について、報告をして頂きます。この調査は、計4日間に渡って行われました。それでは、よろしくお願いします。

事務局  
(課長)

別紙、資料の順でプレゼンをしていただきますので、それを見ながらよろしくお願いします。

神戸大学  
(〇〇)

皆様、こんにちは。本日は、学生の発表の機会をいただきまして、ありがとうございます。私達は、6月30日と9月28、29日は一泊させていただいて文化資源の公式な視察と個人的に丹波に訪れたいという院生が参加させていただいた10月28日、早朝の黒井城トレッキングについて、報告をさせていただきます。結構、個性の強いメンバーが揃っていますので、メンバーの紹介をさせていただきます。一番右手奥の学生が〇〇と申しまして、大阪の出身で生まれも育ちも大阪です。その隣の〇〇は山口県出身で、丹波のことがすごく懐かしいと感じるような風土に育った子です。その隣が〇〇で神戸市民、生まれも育ちも神戸で丹波に訪れたことはなかったそうです。前列が院生です。〇〇と申しまして、彼女は西宮出身でおじいちゃん、おばあちゃんとドライブに丹波に訪れていたそうです。隣が〇〇と申しまして、彼女はずっと東京、関東地方に住んでいて、こういった場所にあまり訪れたことがなかったそうです。私は〇〇と申しまして、熊本県の天草という島に10年、福岡県福岡市に8年、大学から神戸に来まして、神戸でもうすぐ5年が経とうとしています。私自身が色んなところに住んでいた、色んなところに引っ越したという経験から外からの視点で、自分が住んでいた時に気付かなかったことがすごくあるんだなと感じていて、その視点から今回色んなメンバーが集まっていますので、多角的な視点からこの丹波市を見た報告をさせていただければと思います。始めさせていただきます。よろしくお願いします。

神戸大学  
(〇〇)

今から私達がお話しする中で、文化芸術という言葉は何回か使わせていただくと思うのですが、まず、文化芸術という言葉の定義付けとして、おそらく絵とかちょっと高尚なものというイメージがお有りだと思うのですが、丹波市における文化芸術の私達の定義付けは生活文化に根差したものという定義付けをしています。生活の中で皆さんの身近にあるものとして、文化芸術を捉えております。それでは、6町を順番に視察させていただいた文化資源の報告をさせていただきます。

(スライドショー上映)

まず、初めに私から山南地域のご紹介をさせていただきます。ちーたんの館です。こちらは丹波市内だけでなく、県外からも多くの人達が訪れる場所だと思いました。こちらがちーたんの館の外観なのですが、恐竜の首が出ているという個性的な外観をしております。入口を入るとちーたんがお出迎えしてくれて、ちーたんは丹波のマスコットの存在だと思います。展示室に入ると、丹波竜を始めとした色んな恐竜の全身骨格が展示されていて、これは規模的にいうと関西最大級だそうです。こちらがクリーニング室といって、岩の所から化石以外の部分を綺麗に除去していく作業室なのですが、ち

一たんの館に来た人が自由に作業の様子を見られる、ちょっと珍しい部屋だなと思いました。化石の発掘体験で見つかった化石の数が載っていたのですが、最初丹波竜の発掘の話聞いた時にもう発掘は終わっているのかと思ったら、まだまだ化石が見つかっていて、これからも発掘調査を進めていかれるということで、この土地にかつて恐竜がそれ程いたのだとすごく分かりました。こちらが展示室の様子で、展示台が大人向けに高くなっている博物館とかもあるのですが、ここはすごく子供向けに展示台が低くなっていて、展示の方法も子供が遊びながら学べるような展示になっていて、夏休みとか特に賑わっているようで、親子で楽しめる博物館だなと感じました。次に旧上久下村の水力発電所も行きました、ち一たんの館からちょっと近い所にあります。これは村を救った水力発電所ということで、電気が通っていなかった時代に村の人達が現在の価値にして11億円というすごいお金を自分達で出し合って、造った水力発電所になります。これは国指定の建造物文化財になっていて、大正11年に造られました。こちらが外観でレンガ造りになっていて、川沿いに建っています。こちらが2階から入った時の展示室ですけれども、ここはかつての発電所の事務所があった場所で、今は丹波竜の発見現場がすぐ傍なので、丹波竜の展示を2階でやっております。1階に降りると、かつての発電装置があった場所が下がガラス張りになっていて、この写真に写っているビデオがありまして、発電所が出来た当時のことを知る地域の人達のインタビューとか、出来た当時、村ですごく電気が通ると盛り上がり、それを祝う歌とか作られていたようで、その歌を歌っているのが入っていました。発電所の建物から外に出ると、こういう丹波竜発見の地がすぐそこに見えていて、この展示のパネルがついていました。これがちょっと見にくいかと思いますが、丹波竜のまさに発見現場になります。コンクリートで固められているのがすごく残念で、もう少し保存の方法がないものかと思いながら見ていました。今消えかかっているのですが、上には丹波竜がこういう感じで横たわっていたというのが描いてあって、毎年地元の小学生が塗り直しているそうです。次に川代公園をご紹介します。川代公園は6月に行ったのですが、凄く緑が綺麗な場所でした。駐車場から吊り橋を渡って行って、キャンプ場もあって、凄く景色が綺麗な場所でした。これが吊り橋です。吊り橋の途中に皆様ご存知かもしれませんが、石の色や形が違う「謎を解け」というクイズがいきなり出されて、私は神戸出身で家の傍に川もあるので、都会の川は大体コンクリートで固められていて、地層が見えるとか岩がそのまま残っているというのが無いなということに気付いて、このクイズがそのまま出せるというか地層がそのまま固められずに残っているということ自体にビックリしました。理科の教科書とかで子供達は地層の勉強もすると思うのですが、自分が住んでいる地域に実際こういう身近に見られる資料があるというのは、すごく教育的に見ても校外学習みたいな感じで来て、活用できる場だなと思いました。吊り橋を渡るとこういう広いスペースがあって、たぶん桜とかの時期には皆さんここにシートを引いて観られると思いますけど、インスタレーションとかイベントなど、人を集めて何か地域の人達でできる、活用しがいのあるスペースだと思いました。これは吊り橋の門の所なのですが、屋根の部分が茅葺きになっていて、というのも山南は茅葺きとか檜皮葺きとかの技術者の方がすごくいらっちゃって、古くから伝えられてきた技術の象徴として茅葺きともう一つ檜皮葺きのモニュメントがあるそうで、その象徴として建てられています。山南は檜皮葺きが特に有名で、技術者の方にお話を伺ったのですが、日本全国でお仕事をされていて、それこそ清水寺とか善光寺だとか本当に有名な所でお仕事をされていました。こ

れが山南にある檜皮葺きの研修所になっていて、ここで年に一回か二回、後継者育成のための研修と、あと、修行を終えて一人前になる時に修了検定というものがあるそうなのですが、その修了検定もここで行われています。檜皮葺きはまず檜皮を採取するところから始まるのですが、元皮師という伝統技術保持者に丹波市に住まわれている大野さんという方が認定されています。この写真は元皮師が採ってきた檜皮の厚みとか大きさを揃えて一枚にしている様子です。これは後程ビデオに出てくると思いますが、先程作業した檜皮を並べて、竹釘でどんどん固定していく様子になります。檜皮と竹釘をそちらに並べていますので、あとでご覧ください。檜皮を固定する時に使う竹釘は、山南の一社でしか作られていないようで、その一社だけで日本全国の需要が賄われているそうなのですが、今その一社を支えている技術者がお一人だけなんです。その方は伝統技術者としてまだ認定されていないということで、檜皮葺きをする技術者の後継者育成システムは確立されているのですが、その前段階の材料を採ってくる人、必要な材料を生産する人の技術の継承と技術の保存が今後の課題になってくると思いました。私からは以上で、次は柏原エリアをご紹介します。

神戸大学  
(〇〇)

よろしく申し上げます。初めに柏原の美観エリアについてお話しいたします。柏原エリアは他に視察した場所と比べると観光案内所があったりして、エリア全体で景観を意識している様子がとても分かりました。ここで気になった点なのですが、案内所にガイドさんが常駐するなどして観光案内をしているのかということと、もしされているのであればどの程度の説明をして、観光客の方のニーズに答えているのかというところがまず気になりました。その一方で、このように景観が綺麗で歩いて回れる範囲内にあとで紹介するのですが、いくつものポイントがございますので、とても街歩きに適しているエリアだなと感じました。観光のためのホテルの建設計画も挙がっているとお聞きしております。また、かつてこちらが織田家の城下町であったことから、元々歴史好きな方が訪れることも多いと思うのですが、今後の広報次第では今よりも更に歴史好きな観光客が見込めるのではないかと印象を受けました。柏原は観光地としての特性が非常に強いように感じたので、市民にとっての文化芸術のための場所というよりは、この地域への慣れ親しみとか感覚的なものであったり、その柏原の歴史がそこに住む人たちの体に馴染んでいるのかどうか。そういったことが重要であるのではないかと思います。それから、こちらのエリアを歩いていると大学が入り込んでいる。大学のゼミが入って活動している様子が分かりまして、そのように地元の人がそこに住んでいる人ではない、他所の人を受け入れること、また外部の人間がその地域に受け入れられるような形で入っていくこと、その結果、新しい流れを作っていくことが、地方にとってとても重要なのではないかと考えています。最後に景観を人々の暮らしの表れ、それを文化であると定義するならば、柏原エリアの景観そのものが文化であると言えるのですが、そうでなければ観光振興には有力な場所ではあると思いますが、芸術文化振興に絡められるかどうか、その点を吟味する必要があるのではないかと感じました。次に木の根橋の紹介に移ります。こちらは県指定の文化財で、丹波市のホームページを少し調べたのですが、樹齢千年を超える、2千年とも推定されるような巨木で、丹波市内では最大のケヤキであるそうです。こちらの根がこのように凄く太く成長して、奥村川というのですが、斜めにそれを跨いで長さ10mにも及ぶ自然の橋梁を形作っております。1970年に県の天然記念物に指定され、柏原地域のシンボルとして親しまれて

いるということです。こちらを見ての感想なのですが、まず珍しい自然の造形物である一方で、それが橋という人工物の要素も持っていて、観光地として凄く人気だなというのが目で見て分かりました。実際に橋の木の根っこに手で触れている方もいらっしゃいました。ただ、これだけシンボリックなものである一方で、現地で木の根橋についての情報が多くある印象は受けなくて、柏原という歴史ある場所で、この木の根橋をそこに住む人達がどのように位置付けてきたのか気になりました。それから、景観として、たぶん木の根橋を観光地として推し出していると思うのですが、木の根っこを支えるための処置がすごく目に付くというか、そういった人の手がとても加わっている様子が見えるので、少し残念な印象を受けました。こちらは観光客の方が実際に大きな木の根に触れている様子です。次に柏原藩陣屋跡についての説明に移ります。こちらは国、県ともに文化財に指定されておりまして、すぐ横に小学校があります。建物の前はこのような感じです。こちら説明は丹波市のホームページに載っていることなのですが、柏原藩陣屋跡は1714年に初めて造営され、その100年程後に全焼しました。ただ、後に再建され、明治5年の学制発布により小学校校舎となり、現在も崇広小学校として一部が使用されております。全国でも数少ない陣屋遺構として、また明治以降小学校として使用された経緯から、幕末から近代に至る学制の変遷を考える上でも貴重であるとして、昭和46年に国の史跡に指定されています。こちらは隣接している小学校です。ここでの感想としては、江戸時代の建物の遺構が現在も小学校として使用されているという例は初めて見まして、とても驚きました。すぐ横の小学校に通っている小学生達は、もしかしたら今自分が通っている小学校がどういう歴史を辿ってきたのかということであったり、かなり特殊な環境であるということに対して、あまりまだ認識を持っていないのかもしれませんが、将来そこの小学校よりも広い地域に出て、全く別の小学校を出た人達と話した時に、自分たちは凄いところに通っていたのだなど、自分の地元について考えるきっかけを得ることが出来るということは、愛着の形成に繋がったり、その地域について知るきっかけになると思いました。このように子供の時に土地の歴史を感じる場所に親しむ機会があったら、その後大人になってからも、ふと地元のことを思い出すことに繋がるかもしれませんし、そういったことと同時に地元への愛着を感じるきっかけになると思ひまして、貴重な場所であるなと感じました。私からは以上です。ありがとうございます。

神戸大学  
(〇〇)

私は、同じ柏原にある丹波黎明館と歴史民俗資料館を説明します。丹波黎明館は実際には中に入っていないで外側を見ただけなので、ホームページで詳しく調べたのですが、1885年に氷上第一高等小学校として設立されたのが始まりだそうです。その後1966年に柏原町指定文化財となり、また2009年には兵庫県有形文化財に指定されました。2015年に現在の丹波黎明館という名前でレストランやライブラリーカフェなどを備えた施設としてオープンしています。これが現在の外観写真です。改修工事や耐震工事は終わっているのですが、その工事というのでも創建当時の姿を尊重した形で行われております。この建築様式というのは、専門家から明治時代初期の教育施設として、日本でも5本の指に数えられるほどの建物として評価される程美しい、立派な建物です。小学校が元々の原点だったということで、現在でも教育的な事業を多数行っています。これは丹波黎明館のホームページから調べたポスターなのですが、例えば小学生向けにクリスマスのお菓子作りのイベントや小学生から高校生とその保護者に向けて、ハー



バリウムという最近若者に人気のお花を綺麗に飾って部屋に置くといったものを作る  
工作教室のようなものをしたり、また、高齢者の方に人気だと思うのですが、丹波  
に所縁のある歴史上の人物についての講座である丹波人物伝講座をシリーズでやって  
いたりするそうです。このように元々小学校という場所だから、そのまま教育の場とし  
て、市民に開かれた場所として機能しているのは、素敵なことだなと思いました。また、  
まちづくり柏原という株式会社が現在指定管理を行っているのですが、ホームペ  
ージがすごくしっかりしていて、由来や命名が全部載っていたり、教育の場だという  
由来を重んじて、その志を現在にも伝えようとしているところが、すごく文章からも感  
じ取られて、素敵な場所だなと思いました。次は、柏原歴史民俗資料館とその隣にある  
田ステ女記念館の説明に移ります。この資料館は柏原藩伝来資料を中心に収集、保存し  
ており、調査研究、展示する施設として、先程紹介されました柏原藩陣屋跡に隣接して  
設置されています。常設展示は柏原藩陣屋跡、柏原藩主織田家の人々、支配機構と経済  
基盤、教育と支配理念、城下の賑わい、という五つのテーマで構成されています。平成  
9年度からは、柏原出身の江戸中期の女流俳人である田ステ女の貴重な遺品を集めた、  
田ステ女記念館を資料館に隣接して増設しています。これが歴史民俗資料館の写真で  
す。陣屋跡や黎明館といった歴史を感じる建物の近くにこういう高価な資料がアーカイ  
ブされているのは、所蔵品を物として観るのではなくて、実際に時代の中で使われて残  
されてきたものとして、実感がより湧きやすいのではないかと感じました。このような  
資料館を例えば中学校の授業で訪ねるようにすれば、自分の住んでいる場所に興味を持  
ちやすいのではないかとポテンシャルも感じました。ただ、展示内容が少し難しく、  
ふらりと入ってみたり、小学生が来てみたりとかは少し難しいかなと思うので、説明者  
が常駐していればもっと分かりやすくなるのではないかと思います。また、こういう  
地域の歴史系の博物館施設というのは、柏原の資料館だけではないのですが、今の  
時代ではアーカイブ的な機能から更に一步踏み出した形が求められているのではない  
かとも感じます。例えば、資料館というのは前の時代の人達が積み重ねて残してきたも  
のが保存されているのだから、前の時代の人達が生活を積み重ねていった上で今の私達  
が生きている、これからの世代も生きていくということを実感できる場として、その地  
域に住む人や地域外の興味関心を持った人に開かれた、興味関心を持っていなくてもふ  
らっと訪れて凄いなと思える場として、施設の在り方を考えていく必要があると感じま  
した。私からは以上です。

神戸大学  
(〇〇)

市島に移りまして、ライフピアいちじまを説明します。平成7年11月に開館しました。  
今回は主に大ホールを見学しました。こちらは照明や音響の技術研修、特に高校生や若  
い人に向けた、若い人だけではないですが、技術研修の場を提供しているということも  
ございます。これが大ホールの手前です。ここは様々なアーティストを市外から呼んで  
くるだけではなくて、ご存知だと思うのですが、市民の皆さんが参加するようなフェ  
スタ、バンドフェスタ、和太鼓だったり、後、映画鑑賞会もやられており、そういっ  
たものを数多く開催されております。私達の印象に残った点の一つとして、残響が挙げ  
られます。一般にどんなホールが良いホールかということを考える時に、残響の長さが  
観点に入ってくるのです。勿論長ければ良いというものでもないですし、目的に応じた  
適切な長さがあるのですが、印象としては室内楽だったり、アコースティック、  
もしくは歌、じっくり聴かせたいという音楽に深みを与えてくれるようなホールだなと

感じました。こちらは、平成29年4月1日から大ホールの使用料が改正されました。より使いやすくなったのではないかと思います。こちらが裏です。これがバンドフェスタ。和太鼓フェスタ。写真は市民リポーターの方で、ブログもやっていらっしゃるのですが、そちらから拝借しております。ライフピアいちじまには、大ホール以外にも部屋が沢山ありました。生涯学習の中核、拠点の施設としての機能を担っております生涯学習センター、あと健康センター、市島子育て学習センター、市島図書館などがありました。こちら入口の所で、ここから見える景色もすごく豊かだと思いました。こちらのまとめとしては、多くの人々が行き交う場所だと思いました。アンケート結果の分析によって、この先の展開や方向性が分かるのではないかと思います。次に三ツ塚史跡公園です。こちらも広くてのどかで、素敵な豊かな場所だと思いました。元々、三ツ塚寺が白鳳時代に建てられ、その跡地にこの公園が建てられました。この公園自体が国指定の文化財です。何故指定されたのか少し説明しますと、新治廃寺という全国的にも珍しい伽藍配置なのです。というのも、本堂の両側に東と西がそれぞれ一直線上に並んでいる。他の一般的な白鳳時代の寺院とは異なる伽藍配置になっております。これも拝借いたしました。園内にはご存知のとおり花菖蒲園があり、初夏には約5万本の花菖蒲が咲き、行った時期がちょうど緑が生い茂るような時期だったので、またお借りしたのですが、この写真からお分かりいただけるとおり、凄く綺麗だと思って、花菖蒲の季節に行きたいなと思いました。冬には紅白の梅林も美しく咲くと。他にも児童公園やテニスコート、資料館が併設されておりまして、特に児童公園は砂場やブランコだったり、ターザンロープなどが揃っていて、充実した設備だと思いました。ただ、一方で史跡に興味がある人だったり、こちらの公園で遊ぶ方、テニスコートを使用する方を除いて、人がここに来るようなことがもしかしたらないのかもしれないとも感じました。こちらは文化財における保存と活用の、活用の部分を市民の皆さんがもっと考えていける可能性のある場だと思います。形としては有形の文化財になるのですが、本当に広々とした豊かな風の通る空間は無形文化財とも言えるような風景だと思いました。だからこそ観光や町おこしの地域資源としての潜在能力を秘めていると思います。次が白毫寺、太鼓橋です。五大山白毫寺は天台宗の寺院で702年に建てられました。境内には心の字を型取った大きな一心池があります。今右側に写っている写真です。そこに掛かっているのが太鼓橋です。人間が住む俗世界と仏の悟りの世界を結んでいると言われております。橋の長さは5.2m、幅2.05mで高さが1.75mですけれども、実際に近くで見ると相当な傾斜で、悟りへの道のりの厳しさを表しているようで、それを感じました。こちらが本堂の薬師堂です。その横には安土桃山時代に造られたとされる庭がございます。加えて地元領主の赤松の供養塔である寶篋印塔もあり、こちらが県の文化財に指定されておりました。仏教の守護神と言われる孔雀もいましたが、食べられたということで、新しい子が来ると伺いました。楽しみです。皆さんが白毫寺と聞いてイメージする一番は、九尺藤かなと思います。全長120mで、藤棚を観るためにたくさんの人が訪れると。それと同時にこの時期は渋滞もすごいと伺っております。今回伺った時がすごく雨が降っていて、天気が悪くてゆっくり見学ができなかったのですが、石門を抜けた瞬間に感じる白毫寺とそれを囲む自然の豊かさ、季節ごとに違う景色を見せてくれるのだろうということがすごくよく分かりました。この地の歴史をひしひしと感じる場でした。丹波市には歴史がたくさん保存されています。歴史がそこで止まっている訳ではなくて、今まで生きてきた人たちが大切に手を加え続けてきたからこそ、今の状態で保存

<p>神戸大学 (〇〇)</p>	<p>されていると思います。とはいえ、無理なく続けることが非常に重要だと思いますので、これからどんどん人口が減少していく中で、新しい進め方も必要になってくるのではないかと思います。市島は以上です。</p> <p>続いて、青垣エリアに移りたいと思います。まず初めに丹波布伝承館です。目の前にございます丹波布について、説明させていただきます。丹波布は幕末から明治の初め頃まで丹波佐治の地で農家によって密かに織られて愛用されていたものです。当初は佐治木綿や縞貫と呼ばれていたのですが、思想家の柳宗悦が丹波布と紹介したことが丹波布という名前になったことの始まりです。色は青色と茶色を基本色としており、染料は近くの野山で手に入る植物を用いておりました。例えば栗の皮や山桃、半貫の樹皮が使われておりました。丹波布伝承館についてですが、これは道の駅あおがきのエリアに、丹波布の全てが分かる展示と技術の伝承ということで、郷里は草木染めを設備されたところですが、ここでは2年に一度、伝習生ということで丹波布について学ぶことができます。こちらの施設で私達が感じたことは、丹波布は糸が細くてとても綺麗であるなど感じました。しかし、一方ではライフスタイルの変化により、今までのやり方では厳しいと感じました。当時は農家によって盛んに織られていましたが、現代ではそのようなことがないので、ライフスタイルの変化があるなど感じました。また、次に伝習生達が丹波布の織り方を学ぶ際にはお稽古という認識がありまして、商業性が弱く相場が分からないという点があります。また、卒業した際には各々が丹波布を制作して、各々で販売しているという点から、今後について、再結成した組合は丹波布の普及をどのようにしていくか思案中であるということです。また、これまで流れ作業で丹波布を制作してきましたが、ライフスタイルの変化により、全て一人で丹波布を織ることができるため、普及はしやすくなるのではないかという考えを持っております。次に俳人細見綾子生家について、説明させていただきます。最初に細見綾子さんについて、説明させていただきます。細見さんは1907年、丹波市青垣町に生まれました。俳人松瀬青々に師事し、丹波への望郷の想いを込めた作品を多く作られております。その結果、昭和54年に俳句の世界では最高の賞と呼ばれる蛇笏賞を受賞しております。この建物は平成30年4月22日にリノベーションされて、開館しました。こちらの写真を見てもらえば分かるように、とても綺麗な状態でリノベーションがされております。しかし、2階は整備されていないため上がるができなかったのですが、私は元々建築を勉強していたので、建築という面でもとても興味があるので見たいなと感じました。このように細見さんの俳句が展示されているため、俳句を元々勉強されている方や俳句が好きな方には凄い興味深いものだと思うのですが、私達のような俳句をあまり知らない学生には展示だけで細見さん自身の理解は難しいなと感じました。なので、細見さん自身を知っている人しか来ないのではという懸念が浮かびました。また、2階では蚕を飼っていたということなので、丹波布との関係性もあるのではないかと感じます。次に氷上エリアに移ります。</p>
<p>神戸大学 (〇〇)</p>	<p>私からは氷上の説明をさせていただきます。まず、水分れ資料館と水分れ公園で、ここは本州一低い中央分水界です。この右方向に直線に進んでいるのが、加古川系で瀬戸内海に進むもので、奥にちょっと曲がっているのが、由良川系で日本海へ進むものです。これは人工的に再現されたものですが、その標高が日本一低いということです。資料館の中ですが、この展示は手前のボタンを押したら水がわーっと手前と奥から出</p>

てきて、中央が低くなっているので本州が分断されてしまうことを表しています。皆さん大体お揃いになりましたら、という優しさが見える展示です。写真が足りなかったのですが、高瀬舟の原寸大の模型があって、案山子の人形がそれを漕いでいる風になっていたり、ちょっとホラーだったのですが、面白い展示は結構ありました。でも一回来たらいいかなと思ってしまうようなコンテンツだったので、もうちょっと見せ方によっては可能性があるのではないかと感じています。これが水分れ公園なのですが、これだけ広くて橋があったり、色んな場所がある。子供たちが普段遊びに来るような場所で、春には桜も咲くそうでお花見の場にもなるらしいのですが、自分達が演奏とか演劇とかをやっているの、その視点から見るとこれだけ水の音とか聞こえて、視覚でも緑がたくさんあってというこの空間、こんなに五感を開ける空間というのは、これから先日本になかなかないと思うので、この空間をより利活用して、インスタレーションとか何か新しい舞台創造とかできたら、もっと面白くなるのではないかとこのポテンシャルをすごく感じました。次に、稲畑人形なのですが、ちなみに稲畑人形をご存知の方はどれくらいいらっしゃいますか。(挙手)。やはり結構挙がるんですね。実際に観に行かれたとか展示があったとかいう感じですか。そうなんですね。全然知らなかったの、こういう伝統工芸品があるのだと思ったのですが。ざっと歴史を説明させていただきますと、江戸末期の弘化3年、1846年に赤井若太郎忠常さんという方が創り出したもので、今は5代目の赤井君江さんが継がれています。3代目が赤井君江さんのお父様なのですが、お父様がお亡くなりになってそこで一旦途絶えて、お母様が地域の方々に協力していただいて、改めて復活させたという歴史を持っています。赤井君江さんは本職は教師をされていたので、現役の時は教師と技術者と並行でやられていたそうで、教育現場でも教材として子供たちに制作をさせたり、という活動を行っていたそうです。今は教師を引退されているのですが、公民館などで教室を開かれていて継続して子供たちに教えたり、大人の方も現職の教師の方が来られてそちらにも教えて、その先生が学校でも教えたりするというように、丹波の伝統工芸品としてと共に教材としてもすごく利活用されている。上手く使われていると思います。これだけ地域の伝統工芸品が学校の教育に根付いているのも珍しいことだと思うので、どんどん継続して欲しいと思いますし、まだ氷上の小学校でしかされていないみたいなので、丹波市という大きな括りになったからこそ、色んな町にも広がっていったらよりいいのではないかと期待しています。一番の問題は後継者の問題で、赤井さん自身がこれまで血縁で繋がってきたから血縁で繋いでいきたいという思いもあるのですが、自分自身が継いできたことの辛さと、お母様の復活させた苦勞を見ていたら、これ以上継がせるのはちょっと苦しいという思いがあるようで、これは私で途絶えとはっきりおっしゃっています。そうなった時に丹波市としてどうしていききたいのかということと、私は教材として残して欲しいという希望があります。後継者がいないからこそ、ぜひ映像の資料とかで残して、引き継いでいけたらいいのかなとも思います。これが、人形が展示されている香陽館です。こういう風に生い立ちとかが展示されていて、今、目の前にもあります。この型に流し込んで固めていくそうです。別館で実際に実演を見せていただいております、この後の映像にもあるのでぜひご注目下さい。これは公民館に飾られているものです。教室のもので、生徒さんが造られたものを展示保存、一旦置いている状態になります。本なども持ってきていただいて、すごく丁寧にご説明していただきました。最後は植野記念美術館です。こ

こは、私達がトレッキングの帰りにミュシャ展をやっているということで、すごく興味を持って行ったところです。この植野記念美術館は平成6年に氷上町立でできたもので、丹波市になってからは丹波市が管理しています。実業家の植野さんの寄附から建てられたものです。これが外観になります。収藏品として、パプアニューギニアの民俗美術や絵画、景德鎮の磁器を使った中国現代美術品、財団の支援で行われていたエンバ美術コンクールにおける中国近代美術館の会場作品が保存されています。中央にあるのが花崗岩で造られた巨大な地球儀なのですけども、理事長である実業家の植野さんがアジアを中心に活躍されていたということで、この言葉が刻まれています。丹波市ゆかりの作家の作品も紹介したり、企画展の内容もすごく面白いものをされているので、神戸市にまで広がっていく広報力というのが必要なのかなと思います。実際に中では、コンサートやワークショップも行われているということで、市民と美術を繋いでいく役割を持つ美術館として、このコンサートやワークショップの取り組みがどのように反映されているのかが気になります。中身も規模もちょうど良かったので、普段あまり美術を観ない人でも苦なく観れる、飽きずに観られる場所だと思うのですけれども、ミュシャ展に実際に行ってみて、ちょっとコアな人しか集まらないのではないかと。来場者が限られているのではないかと感じたので、ぜひその点もお話をお伺いできればと思っています。次は春日に移ります。

神戸大学  
(〇〇)

続いて、春日エリアに移らせていただきます。初めは、春日文化ホールについてです。春日文化ホールは昭和63年10月に開館し、2004年に外壁の改修工事が行われました。丹波市役所春日庁舎、春日住民センターと隣接しています。ライフピアいちじま、やまなみホールと共に市民の文化芸術の拠点として、運営されております。座席が可動式のロールバックというもので、椅子を収納することもできるため、様々な発表ができる場所になっております。こちらを見て感じたことは、ライフピアいちじまと同じように丹波市民の文化芸術の場として活用されているので、素晴らしいと感じております。また、ライフピアいちじまとやまなみホールと共に、どのように文化芸術の住み分けが行われているのかという点で、とても興味を持ちました。続いて、黒井城跡に移りたいと思います。黒井城跡は、奥丹波の盟主であった荻野氏の居城跡です。織田信長の丹波攻略の際には、二度に渡って明智光秀の攻撃を受けました。このように素晴らしい景色を観ることができます。現在は石垣のみが残っていますが、分厚い平瓦、軒丸瓦、雁振瓦などが山から見つかっていることから、かなりの規模の瓦葺建造物であったことが予想されます。黒井城跡は永禄から天正期の城郭遺構が、その後変革の手が加わることなく、良好に残されているため、城郭史上極めて重要であるとして、国指定を受けています。先程も述べたとおり、10月28日が丹波市スポーツの日に定められているため、私と前列の二人で丹波市黒井城跡トレッキングに行きまして。すごく楽しかったです。そこで感じたことなのですが、足場が少し滑りやすく不安で、普段登り慣れていない私達はちょっと怖かったという感想を持ちました。ただ、頂上の景色がとても綺麗で素敵でした。このように他の県などにも山の上に城跡が残っているところはあるのですが、麓を観た時に田んぼが残っていない。麓の街は都会のような景色になっている所が多い中、このように昔ながらの景色が残っているのは素晴らしいことだと感じました。登った際にお聴きしたことで、毎日登っている人がいる。中には7千回も登っている方がいるということで、市民とすごく関わりの深い山であると感じました。登っている最中に

	<p>も見張り台とされていた場所があったり、麓には春日局が生誕したと思われる興禅寺が残っていたり、歴史的スポットがかなり多く残っていました。ただ、その歴史的スポットを私達が知るには、トレッキングの時には高校のワンダーフォーゲル部の説明があり、その説明を聴くと歴史的なことが分かったのですが、観ただけでは分からなかったもので、そのような説明が少しあるだけでもすごく歴史的な学習ができる場所になるのではないかと感じました。続きます。</p>
<p>神戸大学 (〇〇)</p>	<p>丹波GOGOフェスタに行って参りました。トレッキングの日です。ご存知の方もいらっしゃると思うのですが、すごく大きなイベントで駐車場に何百台もの車があって、正直こんなに人が集まるものなのかと思いました。というのも、スタディツアーで色々お伺いした際は日中でお仕事だったり、学校の時間だったということもあると思うのですが、なかなか人とすれ違わなかった。遇わなかったのですね。ですが、GOGOフェスタは本当に大盛況で、すごく楽しませていただきました。ありがとうございます。</p>
<p>神戸大学 (〇〇)</p>	<p>それでは最後に、私達が感じたことをまとめさせていただきます。初めに丹波市は、歴史が多く残っていること、また、公園や施設なども多くあることから、かなり様々なことができ、ポテンシャルが高いと感じました。次に、人づくりとまちづくりとして、例えば稲畑人形の赤井先生のように教育面でも意識的に活動されている方がいたり、檜皮葺きや丹波布の育成システムなどはかなり活用されていると感じました。続いて、交通面の整備として、丹波市は車社会であり、車が無いと様々な観光がしにくいと感じました。また、丹波市になるまで各々のエリアで、それぞれ京都エリアや神戸エリアに行ったりして、それぞれのエリアから外に出る機会が多かったということを知りました。続いて、丹波市民のための文化芸術、市民の意識として、GOGOフェスタやダンスフェスタなど市民が様々な文化芸術に関わる機会が多いのですが、活動している内容自体を文化芸術だという認識を持ってされているのかについて、市民の意識が必要ではないかと感じております。続いて、保存と活用として、丹波布や稲畑人形などは今後どのように保存していくのか、活用していくのか、ということを考えていかなければならないと感じました。特に稲畑人形は、後継者の問題がありますので、映像資料などで残していくことがとても大事なのではないかと感じております。その点において、丹波市は平成16年11月1日に6町が合併してできましたが、それぞれが持っているものを他の旧町が知るためにも映像で残すこと、保存していくことが大事ではないかと感じております。次に、人里としての美しさ、懐かしさとして、丹波市の持つ景色の移り変わりの美しさ、都会にはない景色の懐かしさに私達は感動しました。最後に、今後の展開への願いとして、私達はツアーをしたことでこれらの現状と課題を学ぶことが出来ました。今回学んだことが計画の策定において、活かされたらいいなと願っております。ご清聴ありがとうございました。（拍手）。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございました。ディスカッションの時にまた、個々の問題について、皆さんのご意見を伺いたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>(3) シューベルティアードたんばについて 続きます、シューベルティアードたんばにつきまして、〇〇委員よりご説明</p>

をよろしく願いいたします。大きなイベントが10日に終わったばかりということで、お忙しいところありがとうございます。〇〇委員にご説明いただきますのは、前回の審議会での小学生への学び体験等のご意見を踏まえてのものでございます。それではよろしく願いいたします。

〇〇委員

丹波の森公苑の〇〇と申します。よろしくお願ひします。私の方からは、丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんばの取り組みについて、お話をさせていただきます。ただ、この取り組みは丹波圏域を対象にしております、丹波市だけではないのです。丹波市、篠山市合同の取り組みであることを前提にお聴きください。それではまず、ちょっとだけPR映像を見ていただきます。

(PR映像上映)

シューベルティアードたんばは、映像の中にもありましたように人と自然と文化の調和した地域づくりを目的とする丹波の森構想、丹波の森構想は今年度で30周年を迎えるのですが、その中で丹波の森構想を推進するために1995年阪神淡路大震災の年に始まって本年度で24回目を迎えました。丹波の森構想の中で丹波の森がモデルにしたのが、オーストリアのウィーンの森で、ウィーンには良質の音楽が生活の中にあり、そこを目指していこうというところから始まりました。来年度で四半世紀を迎えるのですが、実は関西でこれだけ長く続いている音楽祭というのはたぶんないと思います。一番長いので、他地域に誇れる文化資産と言って良いのではないかと考えております。PR映像の中にも出ていましたが、シューベルティアードというの、シューベルトが仲の良い友達を自宅のサロンに呼んで行っていた演奏会のこと、この言葉を音楽祭の名前にしたというのは、気軽に友達が集まって楽しむようなアットホームな雰囲気大切にしたいという願いが込められています。前に示しているのが、シューベルティアードたんばの実行委員会組織です。設立当初から実行委員会組織で行なっています。重大な決定事項がある時には、実行委員会の総会に諮って決めていくという形を採っています。実質的な企画に関しては、篠山市出身でテノール歌手の畑儀文音楽監督と10名程度からなるプロデュース部会で行なっています。プロデュース部会は大体月に1回開催して、そこで出た意見を具現化するために事務局である丹波の森公苑の担当職員が、渉外とか会計等の事務を行うシステムになっています。設立当初は県下初の生活創造センターである丹波の森公苑のオープニングイベントを兼ねていたということもあって、県や各旧町、市島町、春日町などから経済的な支援をいただいていたのですが、行政からの金銭的な支援がだんだん打ち切られていって、予算規模は大変縮小しています。始まった当初は、海外から10名近いアーティストを招いたりというようなことも行っていたみたいですが、今となっては国際音楽祭の冠を維持するために、年間に一人二人呼ぶのが精一杯という状態になっています。ただ、それでも続けてこられているのはプロデューサーもしかり、街角コンサート実行委員会の方もしかりですが、多くの地域住民の方にボランティアとして参加していただいているということです。また、民間企業にもスポンサーになっていただいたり、後援していただいて、広報等にご協力いた

だくなどお世話になっています。このように産官民が三位一体となって創り上げているイベントであるということも誇れるところなのではないかと思っております。先程豊岡との比較という話がありましたが、豊岡も5, 6年前から音楽祭をやられています。予算規模としてはウチの3倍くらいありますが、東京の音楽会社が入ってそこが創ってしまうというところが若干あるので、ウチと組織が全然違うということを知っておいていただいたら、ありがたいかなと思います。お手元に本年度の音楽祭のパンフレットが届いているかと思えます。この音楽祭は毎年9月にオープニングのコンサートを行って、11月にフィナーレを飾るガラコンサートというのを行います。このオープニングからガラまでの2ヶ月の間に市島町、春日町、氷上町、青垣町と旧町1か所ずつの街角コンサートを行います。ですので、全部で12個のコンサートを行うというのが基本となっています。実は最後のガラコンサート、一昨日終わったところなのです。パンフレットを開いていただくと、まずオープニングが9月、今年は9日に行われました。篠山で行ってその後、各街角コンサートを1か所ずつ行っていく。実は先程報告の中にもあった黎明館を使っていたり、丹波布技術保存会の事務局になっている佐治来楽館を使っていたり、そういうところを使いながら街角コンサートを10か所する。最後がガラコンサートなのですが、いつもは森公苑のホールでコンサートをやってフィナーレを迎える訳ですが、今年は県政150周年の補助金をいただいたので、特別企画で一昨日とても大掛かりなものをやりました。簡単に言うと三つのコンサート会場をバスで繋いで、ハシゴするという企画です。これも文化遺産を使ってということで、篠山城の大書院と柏原の陣屋跡でシチュエーションを活かした屋外のコンサートで、当然柏原の街中の散策とか篠山の河原町の散策とかをボランティアガイドにお世話になりながらというようなことです。その後、森公苑のホールに集合して最後のコンサートをするという三つハシゴの企画をしました。阪神間から誘客のために、JRにお願いして貸切電車を大阪から出しまして、貸切電車の中で車内演奏なんかを行ったり、というようなとても大掛かりな企画でした。私は総括なので事務所待機の仕事だったのですが、後で歩数を見たら2万5千歩くらい歩いていました。なかなか大変でした。ただ無事に終わりました。今年のガラコンサートも500人のお客様に入っていただいたというようなことです。この12か所のコンサートは一連のものであるという認識の基にシンボルマーク、右下にあるのがシンボルマークなのですが、旗を12か所のコンサート会場に持ち回って、必ずシューベルトの曲を2曲以上は入れるというような共通ルールに基づいて、全てのコンサートを実施しています。先程もちよっと話しましたが、最大の特徴は街角コンサートだと思っています。また、映像をちょっと見ていただいたらと思います。

(映像上映)

最後、駅でコンサートをしている映像です。先程も話の中にあつたように丹波地域に良質のコンサート、音楽をとということで、ホールでクラシックコンサートをしてなかなかお客様には来ていただけないのです。未だにチケットの斡旋で話をしても、そんな高尚なものはよう行かんと言われる方が、沢山おられま



す。それならば、出かけていこうというようなアウトリーチの発想で始まったのが、街角コンサートです。先程も言ったように地域の文化遺産であるとか、お寺や公民館、酒蔵とか、そういう所を使って街角コンサートを行っています。その会場全てで呼び掛けて、各町の街角コンサートに来た人が最後ホールに集まって来ようよというようなつくりになっています。里山とか、川のほとりとか、神社とか、お寺でクラシックコンサートをやるというのは、開始当時はどこにも見られない独特なものであったと思っています。ちなみに街角コンサートというのは、先程も言ったように各街角コンサートの実行委員会というのがあって、当然ボランティアの方なのですが、そこが企画運営を行います。我々としては、プロデュース部会で決定した共通事項をお伝えして、最低限の事業開催日をお渡しして、後は企画運営、司会進行とか、チケット販売まで実行委員会で行うという形を採っています。また、先程も紹介があったのですが、音楽祭本体は12か所のコンサートなのですが、シューベルティアアーデたんばを二十何年もやっているとすぐ沢山のつながり、出演したアーティストも200名近くになります。そういう繋がりのできたアーティストを丹波管内の学校に派遣するふるさと音楽ひろばやキン・コン・カン・コンサートという派生事業を行っています。このパンフレットの裏面に本年度の実施校を載せています。小学校10校、中学校2校、高等学校1校で実施いたしました。キン・コン・カン・コンサートというのは、近くでコンサートを鑑賞するという意味と学校をイメージするチャイム音と被せてキン・コン・カン・コンサートという名前を付けています。ふるさと音楽ひろばも、全て小学校のオープンスクールの日を実施していただいています。地域住民が小学校に集まって、地域皆で楽しむというような意味をふるさと音楽ひろばという言葉に重ねています。普段プロのアーティストの生演奏を聴くことのないこの地域の子供達にとっては、とても貴重な体験になっていると思います。今でこそ文化庁とかの派遣でオケが来てくれたりみたいなことが、田舎にもだいぶ出てきましたが、それでも市内22校の小学校の内、2校、3校当たれば良いところという形なので、丹波地域10校にアーティストを派遣できていることは素晴らしいことかなと思っています。また、シューベルティアアーデたんばは、東日本大震災の被災地を応援するために、平成23年度、東日本大震災が起こった次の年から、全コンサート会場、12会場で募金活動を行って被災地の小学校に楽譜とミニコンサートのプレゼントをしています。本年度は、福島県相馬市の磯部小学校を訪問しました。校区の住民の一角が津波の被害に遭って命を落としたという大変被害の大きかった学校です。近年、各地で色々な災害が起こっていますが、学校や子供達の受けた被害が最も大きかった東北に支援をずっと続けています。毎年、被災地の子供達からまた少し元気をもらいましたというような感想が届いており、嬉しい思いをしています。最後に、本音楽祭の課題として、2点を挙げたいと思います。まず1点目は後継者の問題です。街角実行委員会やプロデューサー等の地域住民のボランティアは先程映像の中でも言っていましたが、全員合わせると100名程度になります。この協力者の半数以上の方が、24年間ずっと関わって来られているのです。当時40歳、50歳でバリバリのやり手世代だった方々も、25年経つと65歳から75歳という年になられます。記憶も体力も衰えていく中で、なかなか上手く世代交代ができていない組織、中には綺麗に世代交代できている組

織もあるのですが、できていない組織が多いということが課題であると思っています。一つは若い協力者がいないということ。もう一つは今まで関わってきた方々が手放せないという両側面のところがあると思いますが、今後続けていくためにはその世代交代というのは、後継者育成というのは欠かせないと思っています。もう一つの課題は集客です。実はシューベルティアードたんぼには、毎年足を運んで下さる熱狂的なファンの方がおられます。アンケート結果を見ると、シューベルティアードならではのコンサートとしての質の高さとアーティストとの距離の近さを兼ね備えていること、アットホームな雰囲気と、もう一つは丹波の自然風景とのマッチングがすごく評価されています。ただ、クラシックをレコードで楽しんでおられた世代の方の高齢化ということもあって、徐々に観客者数が目減りしてきています。特に700人近く収容できる丹波の森公苑ホールの最後のガラコンサートの集客は、毎年苦労しています。継続は力なりの言葉通り、丹波地域の方でシューベルティアードたんぼという言葉聞いたことがないという方は、たぶんほとんどおられないと思います。子供からシューベルティアードたんぼという言葉は知っていると思いますが、参加したことがないという方は結構おられます。地域住民の方々に、丹波地域にこれだけ長く続いている素晴らしい取り組みがある。ボランティアの方々によって支えられている素晴らしい取り組みがあるということを誇りに思ってもらいたいと思っているのと、せっかくこの丹波地域に住んでいるのだから、何か所かは行くのが当たり前みたいな、いわゆる生活に根付いた取り組みになっていけば良いなと思っています。普段はクラシックを聴かない人が、例えば飲み屋で今年シューベルティアードどこに行くのというような話が出されるようになれば、本当の意味での地域に根付いた文化資産になっていくのではないかと考えています。以上で、私からの報告を終わります。ありがとうございました。（拍手）。

事務局  
(課長)

#### (4) 伝統文化（地域の祭）等の報告

ビデオをスタートしてください。このビデオにつきましては、神戸大学の学生に先程プレゼンをしていただいた訳ですけども、出来るだけ重複しないように祭系を中心にまとめておりますので、ご覧をいただきたいと思います。少々手振れの所もございますが、ご容赦をいただきたいと思います。

#### (事務局のビデオ)

最初のところにつきましては、導入部分ということでご紹介をさせていただきます。

#### ○ブラック・ボトム・ブラス・バンド With 市島中学校吹奏学部とのコラボ

まず、この映像は事前に市島中学校において、プロの演奏家の方の指導により、練習を行った映像です。ライフピアいちじまです。ブルーの服を着ているのが、市島中学校の生徒です。生徒の皆さんにとっては、人生で有るか無いかの体験ができたということで、大変感激をしたというのが印象的でした。勿論、素晴らしい演奏で、会場全体が非常に盛り上がりました。

#### ○丹波市美術作家協会展

この映像は、この夏に開催されました丹波市美術作家協会展です。本日はお越しではないですが、磯尾委員がこの協会の会長として活動をされています。一番右端の像が、磯尾委員の作品です。素晴らしい作品が展覧されており、心が癒される空間でした。

○丹波青春俳句祭

この映像は、丹波青春俳句祭の映像です。俳句ラリーで柏原の名所を回り、俳句を作られました。

○シューベルティアアーデたんば

この映像は、先程〇〇委員からプレゼンしていただきましたが、シューベルティアアーデたんばのふれあいコンサートの映像です。

○稲畑人形制作技術（氷上）

この映像は、先程大学生のプレゼンにもありましたように、第5代、赤井さんの大変貴重なお話を聴かせて頂いているところです。

○檜皮葺き建造物の維持・保存・継承に係る技術者の養成（山南）

この映像は、檜皮葺き技術の実演をして頂いているところです。口の中に竹釘を数十本含み、専用の金槌で打ち込みます。熟練の技を拝見することができました。特に竹釘の製造は先程プレゼンでもありましたように、日本でただ1人の技術をお持ちの方が山南地域にいらっしゃるということです。

○成松の造り物行事（氷上・市指定民俗文化財）

この映像は、氷上地域の愛宕祭のイベントの1つで、様々なアイデアに富んだ素朴な造り物の展示を見せて頂きました。

○案山子祭（市島）

次は案山子祭です。これは、谷口市長の作品です。そのほかにも趣向を凝らした案山子が50体前後並び、今では真夏の風物詩となっています。

○青垣翁三番叟（青垣・国選択無形民俗文化財）

この映像は、国選択無形民俗文化財の青垣翁三番叟です。おごそかな中にも歴史を感じた瞬間でした。

○丹波竹田祭（市島）

この映像は、市島地域の丹波竹田祭で、六社の神輿が1か所に勇壮な宮入りをしました。重い神輿は2tもあるようです。

○織田まつり（能）

この映像は、能楽師上田敦史氏の監修による能の披露です。来場者の皆さんの興味深い様子が、非常に印象的でした。

○織田まつり（武者行列）

この映像は、総勢100名による武者行列です。谷口市長も参列されました。

○黒井城跡・陣幕（春日）

この映像は、2020年NHK大河ドラマ麒麟がくるの決定に合わせ、来年4月のイベントとして開催されました。出陣の前にお茶を飲んでいたということで、再現をされています。

○黒井城まつり

この映像は、黒井城まつりの映像です。馬に乗っているのは谷口市長です。

○はだか祭り（青垣）

最後にこの映像は、旧青垣町のはだか祭りの映像です。地元の方、小学校の校長先生、市議会議員、職員等も一緒になって、祭りを盛り上げておられました。寒い中ではありましたが、熱気を感じた時間を過ごさせて頂きました。

以上で映像は終わります。そこで私が感じた課題ですが、先程大学生の課題、〇〇委員の課題もありましたが、特に職員の見線で見たところの課題として、それぞれの祭りに行かせていただくと、職員はもちろんOBも含めて、しっかりとイベント、祭りに関わっておられるところが、非常に印象的でした。盛り上がっている祭りについては、そういった職員の手も非常に重要ではないかなと感じたところです。以上です。(拍手)

会長

はい。ありがとうございました。ここで転換が必要になりますので、5分程休みをいただきたいと思います。3時20分から再開ということでお願いします。

(休憩)

#### (5) ミニディスカッション

会長

これよりミニディスカッションを始めたいと思います。今、市内の文化資源を巡る報告をしていただきました。6町で学生の発表はおよそ20か所の名所、旧跡、あるいは文化施設についてご説明させていただきました。それから祭りは地域が限定していますので、祭りを始めとする無形文化遺産については、ビデオで見せていただきました。更に24年という長い期間に渡って、地域に密着したクオリティの高いシューベルティアードという国際音楽祭が、市内各所で展開されてきたという映像も見せていただきました。実に多彩で豊かな文化遺産、文化資源などがあるとお分かりいただけたと思います。これからは、その中からどういう強みを更に活かしていくか。あるいは、ここがまだ少し足りないのではないか。その弱みを見つけて、工夫してどうやってそれを補っていったらよいか、というようなことを考えていきたいと思っています。今日、展示もありますし、今日の報告で感じたことは、私は神戸にいて色々大都市部、ヨーロッパを含めかなり尖ったものに触れる機会が多くて、そういう刺激的な体験は沢山するのですが、やはりこういう地域に密着した文化の暖かみというか、それから癒される感じ、そういったものはやはり格別なものだなと思いました。たぶん、神戸大の学生達も同じようなことを感じていると思います。そういう中で、学生達も丹波市における文化芸術というのは、生活文化に根差したものだという点を勉強させていただきました。この定義はもちろん文化の定義の一つなのですが、生活文化という方向でこの新しい計画を考えていったらいいのか、それともあるいはもう少し尖ったもの、先端的なものを取り入れて刺激するようなことも必要なのではないかと、色んな考え方があってと思います。全国を見ると、地域のアートフェスティバル、現代アートフェスティバルなどもかなり広がりを見せているわけですが、別にそういったものに追従する必要はないのですが、丹波にとって一番いい文化振興の方向性というのは一体どういうものか、ということを実際に皆さんの忌憚のないご意見を聞かせていただければと思っています。特に議題もシナリオもございませんので、本当にご自由に皆さんからご意見をいただけ

	<p>ればと思っております。キーワードについては、学生にここですぐ書き出していただいて、パッとノートに戻って、またそれについて議論できるようにしたいと思っております。時間としてはだいぶ押していますので、30分位を目安に思っております。いかがでしょうか。どなたからでも結構です。</p>
<p>神戸大学 (〇〇)</p>	<p>はい。神戸大学の〇〇と申します。本日は研修報告をお聴きいただき、ありがとうございました。色んな施設を見ていただいた点について、本日はエリア分けで説明させていただいたのですが、その施設についてどれくらいご存知だったのか。知らなかったとか、これは良く知っているとかをお訊きできたらいいなと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>6町が一緒になって15年経つのですかね。たぶん今までは一つのコミュニティとか町の中で閉じこもっていたものが、6町が一緒になったことで外に広がっていくチャンスが出来た訳ですね。ですから、地域固有のものが更に多様なものに触れることによって、市全体として豊かになっていく。その豊かさの中で、新しい丹波市民としての文化的アイデンティティを創っていければいいなど。私はすごくいい方向性じゃないかなと思うのですが。まず、どのくらい自分は住んでいる地域以外の祭りであるとか、施設であるとか、文化資源についてご存知だったか。あるいは知らなかったとかいって、正直に言っていただければと思います。どうでしょうか。〇〇さんどうですか。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>ご指名いただきましたので、口火を切らせていただきます。私は半分よそ者みたいなところがあって、6年前から丹波に住んでいて、それまでは神戸とか、10年間くらいは東京に住んでいたという経験があります。ただ、元々地域史が好きで、こういう所に住みたいと思って引っ越してきたこともあって、ご紹介いただいた施設とか、あるいは村上社寺工芸さんも含めて、檜皮葺きのこととかも存知あげておりました。質問とはちょっと違うのですが、先程の説明の中で少し補足させていただきたいこともございますので、言わせていただきます。まず、柏原美観エリアの観光案内所ですけども、ここはボランティアさんが市内で最も多く常駐されているところです。柏原駅前にも出張して、特に予約がなくても電車から降りてくる方が声掛けをされれば、そのまま案内されるというようなことになっております。おっしゃるように、やはり歴史好きが集う所ではあるかなと思っていて、人数的には年間4000人位の方が来られていることとなります。ただ、市民の間でどれくらい歴史が浸透しているかですが、基本的に柏原の特に武家エリアに住んでいる方というのは、江戸期から続いているお家の方がほとんどなので、そういう意味ではちょっと歴史が浸透しすぎている部分もあって、そこからなかなかこう。例えば、ガイドさんの中にもウチは織田家の家臣だから、みたいな人もいらして、それは勿論プラスなのですが、それ以外の人が入り込み易いかというところもあって、なかなか、その辺が浸透し過ぎているのもどうかというところが、無きにしても非ずかなと思います。それと、大学が入り込んでいっちゃるという。確かにスタジオがあるのですが、これは本当に市の方にもちょっと聴いていただきたいのですが、イベントのときしかいっちゃらなかつたりするのです。常駐ではないのです。その辺がちょっと、大学と住民の皆さん。今日も閉まっているみたいな感じがあ</p>

って、イベントの時だけ何かちょっと目新しいこと提案をしてくれるけど、本当にこの歴史とか、出自とか、そういうことを知った上でのイベントを提案してくれているのだろうかという、ちょっとその辺の乖離感というのが、正直なところあるのかなと思います。その点、青垣の関大はずっと常駐されているので、いつでも声をかけられるというようなところは、ちょっと違うのかなと思いました。その辺、大学との関わりというのが、一つ課題かなと思っています。それで、ガイドさんと歴史好きというところなのですが、私はどんな人にも来てもらえる観光地ということを目指さなくても良いのかなと。自分が歴史好きだからというのもあるのですが、もう少しターゲットを絞り込んで。例えばこのエリアは、大体来る方というのは違う地域の郷土史研究のグループとか、そういうのが多いので、むしろそういうネットワーク作りみたいなことをして、そういったターゲットを絞り込んだ格好というのがあるのかなと。まず誰でも来て、誰でもが楽しいというのだと、むしろ京都とか奈良とか。同じような街並みで言えば、そこにははっきり言って敵わないし。そういうことをする、沢山来るということを目指すのではなくて、ある程度絞り込んだテーマを素晴らしかったと。また来たいという人に来ていただくことが、必要なのではないかなと思います。その意味でも、私がたまたま代表して聞いていますけど、観光ガイドさんは文化財を真摯に捉えている。別にこれで観光にしたらいいいという発想から文化財を見るのではなくて、文化財として素晴らしい。だから、それに人が注目してもしなくてもきちんと研究したいと。その真摯な裏付けがあって、初めて観光に活かせると思うのです。課題なのですが、ガイドさんは勿論、凄く熱心に勉強していただいているのですが、観光ガイドと研究者というのを兼任している人も多くて、もちろん知識は必要なのですが、どうしても観光客の皆さんに分かりやすく、しかも面白く語ろうとすると、つい話を盛ってしまうというのか、そういうところがある。先程も本州一と画面には出して下さったのですが、ポロっと日本一とおっしゃったのがあったと思うのです。間違いとかそういう指摘ではなくて、石生の方は日本一と言ってくれとおっしゃるのです。実は北海道にもっと低いところがあるのですが、その人にも了承を得ているから、みたいなことをおっしゃるのです。観光は別にそれでいいと思うのですが、研究者としてとか、事実はどうかという、それは違うと思うのです。やはり裏付けははっきり持っていて、お客様にどう楽しんでいただくかという、その区別が私ははっきりとあった方がいいのかなと。先程の豊岡の記事で、観光と文化と両方に精通した方が必要という。その精通というのはたぶん、とてもレベルの高いところの精通であって、今みたいにちょっとその辺の区別がつかないということではないと思うので、その辺気を付けていきたいと考えております。それから、檜皮葺きとかですけれども、もちろん知識としては丹波に住んでいらっしゃる方はそれが誇りなので、村上さんの取り組みであるとか、そういうことも皆さんご存知だと思うのですが、さっきの映像ですごく楽しそうにされていたのは体験したからですね。だから、やっぱり観光も含めてなのなのですが、もうちょっとこんなすごいものがあるよというだけでなく、体験できるような施設であるとか、あるいは期間限定でもよいので、そういうことでもう少し何か皆さんの共感を得られるようなことがあればいいのかなと、先程の映像を見せていただいて思いました。それから俳句ですけど、実はこの地、俳句がすごく盛んなのです。俳句サークルも沢山ありますし。ただ、細見綾子さんだけというのもやっぱりちょっと弱いかなと。例えば西山泊雲をご存知ですか。西山小鼓子とか知らないですね。丹波の方は知っていると思うのですが、

西山酒造という造り酒屋のご先祖が泊雲さんという、結構全国レベルの俳人でした。なので、もう少しそういう俳句の方、先ほど言ったターゲットを絞り込むという意味では歴史のこととか、他の賑やかなことは知らないけど、俳句なら知っているという人だけを呼んでもいいと思うのですね。ただ、それが綾子さんだけではなくて、西山さんも行くよというツアーみたいなのが組めたら良いのかなと個人的に思っています。それから稲畑人形ですけど、昨日も赤井先生にお会いして、やっぱり同じことをおっしゃっていました。映像とかデジタルでちょっと残すような方向で協力してくれないかとおっしゃっていましたし、後はこれを文化財として考えると今の物ですよ。天神さんでもだんだん袖が立ち上がってきているというのがあったらしく、古い物は袖がペチャンとしていますね。ところが赤井先生の所は売ってしまっているから、古い物が手元には残っていないので、例えば市民に古い稲畑人形がお家に眠っていませんかみたいな呼びかけをして、それだったら家にもあるということでそれを集積した形で、例えばどこかの展示館で何かそういう展覧会をすとか、そういう風に自分も参加しているという、市民サイドからするとそういう風なことがあったらいいのかなと思いました。ありがとうございました。

会長

今の文化資源の保存と活用の仕方ですけども、〇〇さん、観光の方からだと今どんなアイデアがございますか。

〇〇委員

先程の施設関係については、以前行政にもおりましたし、観光の方にも携わってきましたので、ちょっと名前を忘れていた部分があるかもしれませんが、大半は一応それなりに知っている場面です。確かに先程から出ておりますが、観光と文化、背中合わせと言いますか、ほぼ一体的な部分が多数あると思います。例えば、丹波市内は今、この秋で一番紅葉が綺麗な時です。この紅葉を利用して観光協会では今、9箇寺巡りと言いまして、それぞれのお寺に賛同していただいて、9箇寺を巡っていただくような事業をやっております。だから、対外的な部分とまた、市内の人でもこの9箇寺をまだ知らない方もいらっしゃいます。こういう文化的な、観光的な資源があるということを知っている方にも知って頂くというのを今一番やっているところなのですが、それと合わせて、経済的な部分も必要ですので、賛同していただく、協力していただけるお店ですね。お土産とか食事とかですね。そういった場所なんかもチラシには今一緒に載せて、取り組んでいるところなので、この話を今聴かせていただいて、観光と文化というものが非常に密接に連動していくべきではないかなと感じているところです。以上です。

会長

観光でも外国も含めて外から来ていただいて、何泊かしていただくという仕掛けと、それから特に市内の方で意外と知らない方がいるので、ワンデーツーリストというか、両方の側面があると思うのですよね。とりあえずはやはり、市内の方に知ってもらうという方が優先になる感じですかね。〇〇先生もこの前そんなことをおっしゃっていましたよね。モビリティの問題、つまり公共交通手段の問題が結構ネックかなと思うのですけどね。

〇〇委員

先程の交通の満足面は車がないとダメですね。僕らみたいな車に乗らない人間でいうと、柏原は比較的まとまっているので歩いて回れるけど、他の所はやはりそういう問題

がありますね。ですから、大勢の方に来ていただこうと思えば、その整備をどうしていくのかが一番大きいのかなという気はします。我々の方では、観光タクシーをやればいいとずっと言っているのですね。時間を決めてどこどこを回りますと。お一人が使われても、何人が使われても値段は一定です。3時間コースとか4時間。そしたら、この辺だったらここここは回りますよとかいうような。そして、タクシーの台数のことを言わずに言っているのですけども、タクシーもそれらを流さなくて、前日に予約すれば迎えに来てくれて、荷物はトランクに入れて買い物もできて、そして最後は駅まで送ってくれる。こういうシステムをやったり作らない限り、皆が運転するような時代ではなくなっているので。タクシー会社と契約して、余裕があればそういう観光タクシーのような形で。新しく何かを作るのは難しくても、今あるものをうまく利用すれば何かできるのではないかと考えています。ずっと言っているのですけど、なかなか実現は出来なくて。実は私、和歌山県に住んでいるのですが、田辺の方なんかは田辺の駅を降りると、今日はお泊まりになりますかとか、荷物を持っていると色々言われるのですね。何ですかと訊くと、泊まられるのでしたら明日朝、ホテルまでお迎えに上がりますよと。そしてこういうコースがあって、何々と何々は回りますよと。それは3時間くらいのコースで、幾らですよと。大体、3、4人乗れば元が取れます。結局、田辺の方も色々行ったりするとレンタカーでも借りない限り、不便なのです。バスで行ったらものすごく効率が悪い。そうすると、そういうものが有効かなと。特にこれからはお年寄りの方がおいでになって、車を運転しない方が増えてきた中で、これだけ広い地域をしかも珍しく色んなところに色んなものがある。ある意味、資源に恵まれすぎているのかも分からない。施設がそれぞれ好みによって、私はお寺を中心に回りたいという人であれば、達身寺に行くにはどうすればいいかとか、自分の考えも組めて、しかもタクシーで回れるようなシステムをお作りになればいいなと思っております。

会長

ありがとうございます。観光タクシーのアイデアは、何か実現できそうな気がすると思うのですけども。〇〇さんは植野記念美術館に関わっていらっしゃって、さっき学生の方からすごく良い、こじんまりとしているけども入門者には良い美術館ではないかと。ただ、公募力が弱い。あまり認知されていないということがあります。

〇〇委員

そうですね。神戸大学の方々の発表を聴いて、新たな丹波市を発掘させていただいたような時間でした。本当にありがとうございました。シューベルティアードの取り組みも、こんな風に組織が成っていたのだなど。本当に素晴らしい取り組みだなど。こちらから出ていくという。美術館は来ていただくという。そういう違いがあります。先程、神戸大学の方々の中で、美術館は来場者が限られているのではないかとおっしゃられる方がありました。確かにそれはあります。ですが、大変素晴らしい美術館ということで、来られた方は丹波市は文化レベルが高いですね。美術館を見るだけで、来るだけでそうおっしゃられるのです。実際に、この前あった岩合さんの写真展は、本当に来場者が多くて、テレビとかそういう人気のある、周知されている方の作品展だと、沢山来られます。岩合さんの講演の時には、往復はがきで5倍。10枚出したけど当たらなかったというクレームも付いたくらい、沢山の方が来られたのですが、今来ているミュシャ展の方はどうかと言いましたら、この作品展自身は大変素晴らしい作品展なのです。中身を知ると、そんなに素晴らしい本物が来ているのか。神戸、大阪まで行かないでも観れる



のか。となるのですが、あまり一般的に知られてないので、行ったらよく空いております。空いているから私は好きな美術館なのですが。そういう意味で、講演会も持たれて実際に聴くと、プラハからわざわざこれが来ている。しかもミュシャという方は画家を目指していて、たまたまパリの有名な女優のブラックポスターを描く機会があって、大ヒットしたのです。世界中に知れ渡って、ポスターの作家になったと。でも晩年はやはり画家になって、絵を描いた。その作品が全部来ているのですね。だから、素晴らしいところなのです。先程言われました集客力ですね。集客ということは、絶えず出てくると思うのです。丹波市で文化的なものを高めようとする。交通の面、これも欠かせない課題だと思います。今、美術館や友の会で考えていることは、友の会、400人を目指そうと。友の会に入っていたら、会費を払っているから何回も来て下さるし、その方を中心にコミュニティというか、口コミで広げていただくことで増やしていますが、今のところ375名になっています。後25名で、ここにおられる方が皆入って頂くと達成という。端的に言いましたらそうなのですが、10月からは会費も2500円が半額で1250円になるのですね。それを今色々な会で勧めているのですが、足元を見ようではないかということで、今美術館が建っている地域の氷上町、成松、歩いて行ける人がどれくらい来ているのかというと少ないのです。地域の何とかいうことでね。この間、地元の方に色々なことで協力してもらったりするのも大事なということで、地元の方にもう一度パンフレットを配ろうじゃないかと。アピールして安い1250円で入会したら、大体800円が入館できる場所、それから何回行ってもいいという特典が付きますので。そういうことやちょっと考えておりますが、クリスマスも美術館の素晴らしい大理石の建物を出会いの場に、そして芸術の場にしようということで、今考えられています。それを応援していきたいと思うのですが、もう一つだけちょっと気になることは、子ども達のことです。子ども達にこの丹波市のすばらしさをどうしたら伝えていけるかということですが、今、教育現場では、文化芸術的な時間はどんどん削られています。それで、一体どこで子ども達がそういうことを学ぶかということ、家庭ですね。休みの日とかに、どれだけそういう場へ、買い物のついでにちょっとちーたんの館に行こうかというように足を運べるか。その辺のこそばしというか、仕掛けというか。そういう地道なことが必要ではないかなとすぐ思ってしまう。それから、地域でも井戸端会議が減りました。隣の人と話を交わさない。私もサロンを担当しているのですが、やはり家に閉じこもってしまう。閉じこもっているながら、テレビで色々な人と繋がっているような気になっている。そういう架空のことを考えると、やはりそういう家庭をこそばしたり、地域をこそばしたり、コミュニティを高めるといって、そういう地道な活動、それから交通の便と、その面は絶対外せないと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。先程、〇〇さんからもシューベルティアードの中で、アウトリーチを小学校、中学校ですずとしてきたということが紹介されました。全国的に見て丹波がそういった、特に音楽に関して普及事業を積極的にやっているかどうか、私はまだ判断できませんけども、確実にされているということで。前回〇〇さんの方からその辺りがどうなっているのか、というご質問があったのですが、丹波で生活されて子育てをされている中で、芸術的な経験を子供達あるいは家族がする機会というのは、十分に整っていると思われませんか。

〇〇委員	<p>実際に〇〇さんの説明で、行ったださっているのは分かったのですが、この10校というのはどういう風に決まるのかがちょっと気になったのと、ちなみに、この中にウチの小学校はなかったりするの、その辺が気になったのですけど。</p>
〇〇委員	<p>学校の応募です。</p>
〇〇委員	<p>応募なのですね。</p>
〇〇委員	<p>はい。募集要項を全ての学校に撒いて、応募で。出来るだけ1校に偏らないように、ここ近年の実施状況を見ながら、去年もされているので今回は違うところに譲って下さいみたいな形で、管轄に一斉に広げています。</p>
〇〇委員	<p>わかりました。でも、こういう活動は嬉しいと思います。</p>
会長	<p>後は、ボランティアスタッフさんの後継者問題ですね。これは全国的にも大きな問題で、私も神戸国際芸術祭というのを13年やっているのですが、最初のボランティアさんがそのまま持ち上がって交代が無いという状況があるのですよね。悪いことではないのだけれども、ちょっとそれだけで閉鎖的になってしまって、他の人が入りにくい雰囲気もある。ですから、次の世代にボランティアスタッフさんをどうやって繋いでいくかという、オープンな在り様をどうやって作っていくのかが、課題かなと思います。特に18歳人口が減ってしまうから子供の時に芸術的な経験をしたとしても、その人達が20代、30代になってここに残って自分もスタッフでやりますというのは、なかなか道が開けていけないと思うのです。公務員になれば地域のことを一番よくご存知で責任感もあるので、スタッフとして支えになって、お祭りでも支えになってるのが良く分かるのですが、そうではない方達が伝統芸術にしる、シューベルティアーデみたいな性格のものであれ、どうやって支え手になっていくのかということのをきっちり考えていかなければいけないと思います。でも、まず子供達に色々な芸術経験をシャワーを浴びるようにさせるというのが、第一前提だと思うのですけど。その辺りで、〇〇さんは何かご意見ございますか。</p>
〇〇委員	<p>私は子供がいないのでその辺が分からないのですが。私の経験でいうと子供の時にたまたま運が良かったのか、小学校や中学校でそういう芸術的な体験をした記憶があるので、やはり周りには大人がどれだけそういうことに興味を持っているかで、やはり子供に対する影響も変わってくるのかなと感じます。それは親御さんでもあるし、学校の先生達の中にもやはりそういう芸術的なことに興味がある人が多ければ、そういう応募にも興味を持っていただけるのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。〇〇さんはオペレータークラブをされていますよね。文化ホールの運営スタッフもやはり、後継者問題とかが出てきているのでしょうか。</p>
〇〇委員	<p>そうですね。第1回の時もお話をさせていただいたと思うのですが、現在オペレーターが47名在籍しております。ただ、毎年オペレーター養成講座を事務局で開催して</p>

	<p>             いただいて、何名か講座を受けて、オペレータークラブZERO-IVの会員になっていただく訳ですけども、仕事、家庭等々もあって、なかなか出役していただけない状況があります。ですので、ここ5年、10年先を見た時に、実際私たちが若い人に引き継げるかどうかというのがあります。それと今、神戸大の各学生が各地域を回っていただいた報告の中の芸文という所で、やはり私はホールの方に携わっているのでちょっと気になったというか、現在ホールで私達市民と演者さんとが一緒になった企画、アマチュア・アーティスト育成支援事業をしております。これは、色んなジャンル、和太鼓であったり、ダンスであったり、またピアノであったり、バンドであったりというのを1年を通して開催しています。そういったアマチュア・アーティストを育成することで、他の地域からも色んな人達を取り込んで、こういったことを丹波市はやっていると思わせて、それに伴って、ホールに携わる皆さんもやはり勉強しながら、スキルを上げながら、ホールに携わっていってくれるのが私達の目的なので、やってよかったというワクワク感、そういうものをやはり持っていただくような会にしたいと今取り組んでいる状況です。以上です。           </p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。では、文化協会の立場から〇〇先生いかがでしょうか。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>             文化協会の立場としては、最近は特にスポーツ関係をやられる子供達は多いように思うのですが、文化面に進まれる子供達が少ないように思います。特に文化協会の会員なんかを見ますと、お年寄りというと語弊がありますが高齢者がほとんどで、なかなか子供達というか若い世代の文化協会への加入が少ないというのが現状で、我々も文化祭を毎年やっているのですが、その時に保育園児、幼稚園児の作品展を同時に開催して、せめて子供達の作品があると両親、おじいちゃん、おばあちゃんも来ると。せめてそういったところから、継続を目指していきたいと思ってやっておりますが、何分にも私は音楽関係、コーラスをやっている訳ですけど、丹波市内にも一時期は少年少女合唱団というのが120名程団員がいた時期があったのです。有名なソプラノ歌手の足立さつきさん達がいた頃がそうなのですけれども、最近なんかは10名程度しかおりません。特にコーラスを目指すような人は。他の文化面でも先程言ったように少ないと思います。スポーツ関係はどういう訳か多いのですよね。昨日か一昨日も、丹波の森公苑で少年野球をやってましたけれども。野球、サッカーは非常に多いのですけれども、どういう訳かというのが悩ましいところです。以上です。           </p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。〇〇さんいかがですか。全般的な今日の話の中で。</p>
<p>副会長</p>	<p>             神戸大学の皆さん、お疲れ様でした。前回もお話したのですが、私は週の内半分近く篠山に住んでいるという地の利もあるのですが、丹波市の施設はほとんど全部行っています。というくらい、文化資産が多いなど。篠山にも行くのですが、やはり、それをどう共有の資産として意識していくかということではないかなと思います。ちょっとした例なのですが、この夏にちーたんの館に知り合いに連れて行かれたのです。すごく興味を持って。昼をどこで食べようかということで、柏原に行ったのです。柏原で食事した後、柏原のお菓子屋さんに行くとしーたんの卵というお菓子が売っていて、丹波市名物なのですが、これは要するに山南と柏原ではないですか。旧町で言うと。           </p>

だけどやはり、山南のちーたんを商売というのもあるのですが、柏原のお菓子屋さん  
が自分達の市のアイデンティティとして考えているのですね。そういう日常レベルの所  
から、やはり〇〇先生から最初にお話があったコミュニティ創生というのは、大上段に  
やる所でなくて、そういう市民の意識の所から旧6町が一つの丹波市になっていく、  
意識形成みたいな何かが行われていくような、今回の会議がそういうとこに繋がるかな  
という、そのような気がしています。それからもう一点私の専門ではあるのですが、  
文化施設のことですけれども、植野記念美術館のことで今、〇〇さんがおっしゃったこと  
はすごくそうだなと思ってまして、文化施設というのはシューベルティアードの話もあり  
ましたけど、当然集客だけを目標にするものではありません。ありませんけども、せ  
っかくあるのだったら、やはり多くの人に触れてもらうこと、観てもらふこと、入っ  
てもらうこと、これはまた一方ですごく大事なことだと思うのですね。植野記念美術館も  
割と行っているのですが、前回の岩合さんの写真展、世界中のネコの写真ですごく  
人気で、沢山来られていました。今のミュシャ展は残念ながらまだ忙しくて行けていな  
いのですが、12月に時間が出来たら行こうかと思うのですが、その岩合さんの写真  
展の前に柏原出身の川端謹次さんの作品展があって、私は個人的に初めて観た作家なの  
ですが、すごく感銘しまして、神戸で画を描いている。後年は神戸に住まわれた方  
です。地元から出た、以外に地味な方なのですが、やはり素晴らしい画家だなと感  
じました。丹波市の中では市島のライフピアいちじまに、今から20年くらい前なの  
ですが、前職で朝日放送の事業で行った時に、朝日放送のテレビ朝日のグループでウ  
ィーン少年合唱団を呼んでいまして、市の方は覚えていらっしゃると思うのですが、  
ウィーン少年合唱団の公演をやったのです。当然ながら満席ですごく賑わったなとい  
う思いがありまして、私は今篠山のホール運営委員などもしてたりするのですが、や  
はり何かこう劇場に来てもらえる仕掛けがありながら、シューベルティアードのよう  
なアウトリーチとかもすごく大事なことで、そういうことが相関関係を持って広がっ  
ていく。そういう中で、これは市の方に申しあげることかもしれませんが、それはそれ  
なりに予算が必要なことかもしれない。やはりそういう流れ。神戸大の学生の報告にも  
あったように、やはりライフピアいちじまは素晴らしい音響施設を持っているいい音  
楽ホールです。春日のホールも大事な施設です。だから、そういう予算を持って広まる  
ようなこともありつつ、それがまた一般にも普及していくようなアウトリーチの流れ、  
そういう2段構えの組織作りみたいなものがすごく必要なのではないかなと思います。

会長

ありがとうございます。だいぶ時間が超過しておりますが、最後に一言という方、ど  
なたかいらっしゃいますか。

〇〇委員

はい。全ての地域のことを知っておられますかという話ですが、たぶんここにおられ  
る方は知っておられると思います。ただ、一般の方はほとんど旧町を越えてというの  
はないのではないかと。例えば、山南の方が青垣の観光とか、市島の観光とかは行かれた  
ことはないと思います。恐らく京都観光は行かれていますけど。ですので、それはたぶ  
ん知られていないと、行っておられないと思っています。もう一つは祭の映像の話があ  
りましたが、文化財として例えば青垣翁三番叟は知っていますし、山南の青田神楽舞も  
知っています。でも、祭りはすべて同じ日に行われており、ウチの村でも祭りが行なわ  
れているので、当然丹波市の方はほとんど行かれたことがないのではないかと。そうい

う意味での文化財は、なかなか難しいと思います。だから、生活文化ですけど、丹波布は青垣ではものすごく子供達にも浸透しています。青垣小学校の卒業記念作品は丹波布で作られています。それから、檜皮葺きも地元の上久下小学校の子は何度も体験しています。稲畑人形も氷上町の子は体験しています。結局、丹波市になって15年経ちましたけど、旧町の行政がしっかりしていたのか、経済圏も違うのです。春日や市島の方は福知山に買い物に行かれますし、山南の方は西脇とか篠山に買い物に行かれるみたいなこともあって、それが一つのものを目指すということはなかなか難しい気がするのです。それぞれの文化なり、生活経験がしっかりし過ぎていて、15年経ってもなかなか一つのものにならない。それを無理矢理一つにするよりも、それを大事にしながら、ネットワークを繋げていくような。例えばシューベルティアードは各街角で各実行委員会が独特のコンサートをやっておられますけど、そこに共通のルールを設けて旗をリレーしていくみたいな。線で繋げる。網を掛けるというか。そんな方向性が見えてきたらいいのになど、私は今日の話聴いて思いました。以上です。

会長

はい。大変貴重なご意見を沢山いただき、ありがとうございます。残念ながら時間がだいぶ過ぎてますので、ミニディスカッションはここでお終いにさせていただいて、事務局から今後の予定についてよろしく願いいたします。

事務局  
(課長)

#### 4 今後の予定について

それでは簡単にご説明させていただきます。次第の後ろ側をご覧ください。4番の今後の予定で、市民等のアンケートの発送については、11月20日を予定してまして、12月20日には回収をします。その後分析をして、第3回の審議会については、来年の3月29日を予定しております。それと第4回については、来年の6月を予定してございまして、今回は丹波市の文化資源について、ご紹介させていただいた訳ですけども、次回からは、若干資料的な説明をさせていただく中で、ご意見をいただきたいと思っていますので、どうかよろしく願います。以上です。

会長

ありがとうございます。その他ですけど、何かこの機会にご発言ございますでしょうか。よろしいですか。

〇〇委員

#### 5 その他

ちょっといいですか。6つの町が引っ付いて一つになって、資料を拝見するとやはり施設がものすごく多いし、重なっているように思います。そうすると、6つの個性はいいと思うのです。活かさないといけない。きっとダブっているようなところはどういう具合に整理をし、どういう計画を立てておられるのか、我々が言ってもいいんですけど、まず市はこういう施設をいつまでも同じレベルで維持し続けることは無理だと。老朽化も進みますし。そうすると、どこかで集約、これはこっちへとそういう話を聞かせていただかないと。提言をするにしても、ここはこういうのをもっと活かして、そしてこちらにあるのをこちらに来ていただけるように固めて、そこはそういう仕組みにしていきましょうとか、そういう話をしていけないと。いい所を全部聞かせていただくと、反対にみんな活かさないといけないのかなど。でもきっと、全体としては人口が減りますよと。当然、財政規模も今のままは維持できないことになるし。そうすると、ハード面に

	<p>かけてるお金をどれだけ絞って、今度はソフト面に回せるのかという話ですね。もし、どこかの時点でお話いただけるのだったら、聞かせていただく方が何か考えるヒントになるのかなと思っています。なかなか、難しいことだろうと思いますけども、よろしくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>今の件に関しては、公共施設をどういう風に整理していくかという。検討は難しいですか。</p>
<p>副市長</p>	<p>今、〇〇先生がおっしゃったように、各自治体どこも一緒なのですが、特に合併したところは公共施設が重複しているところが沢山あって、これをこれから老朽化していく中で減らしていこうという計画がある。丹波市にも公共施設等総合管理計画がございます。その中では約3分の1、30数パーセントは減らしていく。そのような計画になっています。これについては、一度資料も出してご説明しますが、先程神戸大学の学生からもありましたけども、文化ホールみたいなものであれば、市島に一番立派なホールがあり、春日文化ホールがあり、やまなみホールがあるという。三つホールがあります。将来的に残すのは、市島のホールだけ。春日文化ホール、やまなみホールについては、老朽化してこれ以上使えないということになった段階で廃止をしていく。あるいは色んな体育館がございます。こういった体育館も残すものと廃止していくもの、スポーツ施設なんかもそうですけど、それも一応決めております。そういう形で、大体3分の1は廃止をしていく方向になっておまして、これについてはまた、どこかの機会でご説明をさせていただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今回の計画については、それは前提としないでやるということによろしいですか。例えば、10年後を見据えるというのが計画の目的なのですが、その10年の間に老朽化して閉鎖するようなことが出てきた場合は、そこを活かすということは入ってこない訳ですよ。その辺は少し漠然とした形で。</p>
<p>副市長</p>	<p>特段、いつ廃止するというようなことは計画上には挙がってなくて、一定老朽化してそれを維持していく、更新していくのに大きなお金がいるということになったら、それはもう更新をしない。廃止をするという。そういうような位置付けになっています。例えば、この審議会の中で市島のホールは本格的なホールなので、こういう性格のために使うべき。一方、春日の文化ホールは用途を変えて、こういう風にするべきということで、大きなお金は入れなくても廃止はせずに、一定の何らかのお金を入れて維持していくべきというような考え方が、もしこの中で整理をされて出てくるということであれば、それはそれで場合によっては方針を変えてというようなことも、もしかしたらあり得るのかなと思います。その辺は、今度の議論の進み具合でご意見をいただければ、また考えたいとは思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。他よろしいですか。</p>
<p>会長</p>	<p>6 閉会 それでは、無いようですので、次第の最後になりますけども、閉会に当たりまして、</p>

副会長	<p>副会長からご挨拶を頂きたいと思います。</p> <p>本日は皆さんお疲れ様でした。昨日も高源寺に行ったのですよ。ものすごい人で車も停められない。だから、梓下の所に停めて歩いて上がりましたけれど。今日色々議論が出ましたけれど、神戸大学の学生の方々、いわゆる生活文化ということを中心に文化資源に関して色んな発表があって、たぶん私以上に今日の出席者の方はよくご存知の所ばかりだったとは思うのですけども、もう一度やはりこういう形で発表をしていただくと何か再整理できました。ありがとうございます。私は篠山に市民権は無いのですが、宝塚市民なのですけども、この日曜日に篠山市の問題がどうなるかというのが決まるようなことが言われてまして、こちらの谷口市長も広く丹波ということで意識を持っています。それも一つの考え方かなと思います。先程も〇〇委員から出ましたように、旧6町の問題、確かにそういうところもすごくその通りだなと思いつつも、何か大きな括りで自分達のまちに誇りを持って、どういうことを文化芸術の基本にしながらまちづくりをしていくかが、この審議会ですることによって大きなことかなと思います。次の第3回では、市民の方々のアンケート結果とかが出てきますので、もう少し生活文化からより突っ込んで、芸術文化の方も含めて幅広く議論していきたいと思えます。また、次回もどうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。皆さんもありがとうございました。</p>
各出席者	<p>ありがとうございました。（拍手）</p>